



2018年3月期(平成30年3月期)

# 決算説明会

2018年5月22日

株式会社ジャムコ



# 技術のジャムコは、 士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めています。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

- この資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来に関する見通しであり、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度に関するさまざまなリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績はこれらの見通しとは異なる結果があり得ることをご承知おきください。
- この資料における数値について、記載金額は、表示桁未満を切捨てしており、増減率(%)は、表示桁未満を四捨五入して作成、表示しております。
- 本資料を(株)ジャムコの許可無く転載・複写することを禁じます。又、本資料を使用することにより生じたいかなる損害について(株)ジャムコは一切責任を負いません。



## Contents

### SECTION

### 1

## 2018年3月期 決算の状況

- 04 | グループ連結P/L
- 05 | 連結経常利益の前期比差異要因
- 06 | 連結経常利益の計画比差異要因
- 07 | セグメント別 売上高・経常利益①(前期比/計画比)
- 08 | セグメント別 売上高・経常利益②(前期比)
- 09 | セグメント別 売上高・経常利益③(計画比)
- 10 | グループ連結B/S
- 11 | グループ連結 試験研究費/設備投資額/減価償却費
- 12 | グループ各社の状況

### SECTION

### 2

## 中期3ヶ年計画

- 14 | 経営環境と市場動向
- 15 | 中期ビジョン
- 16 | 中期の課題と対応
- 17 | グループ連結 売上高/経常利益/親会社株主に帰属する当期純利益
- 18 | 航空機内装品セグメント 売上高/経常利益
- 19 | 航空機シートセグメント 売上高/経常利益
- 20 | 航空機器製造セグメント 売上高/経常利益
- 21 | 航空機整備セグメント 売上高/経常利益
- 22 | 経営指標の推移
- 23 | グループ連結 試験研究費/設備投資額/減価償却費

# 2018年3月期 決算の状況

- 04 | グループ連結P/L
- 05 | 連結経常利益の前期比差異要因
- 06 | 連結経常利益の計画比差異要因
- 07 | セグメント別 売上高・経常利益①(前期比/計画比)
- 08 | セグメント別 売上高・経常利益②(前期比)
- 09 | セグメント別 売上高・経常利益③(計画比)
- 10 | グループ連結B/S
- 11 | グループ連結 試験研究費/設備投資額/減価償却費
- 12 | グループ各社の状況

## SECTION

# 1

## グループ連結P/L

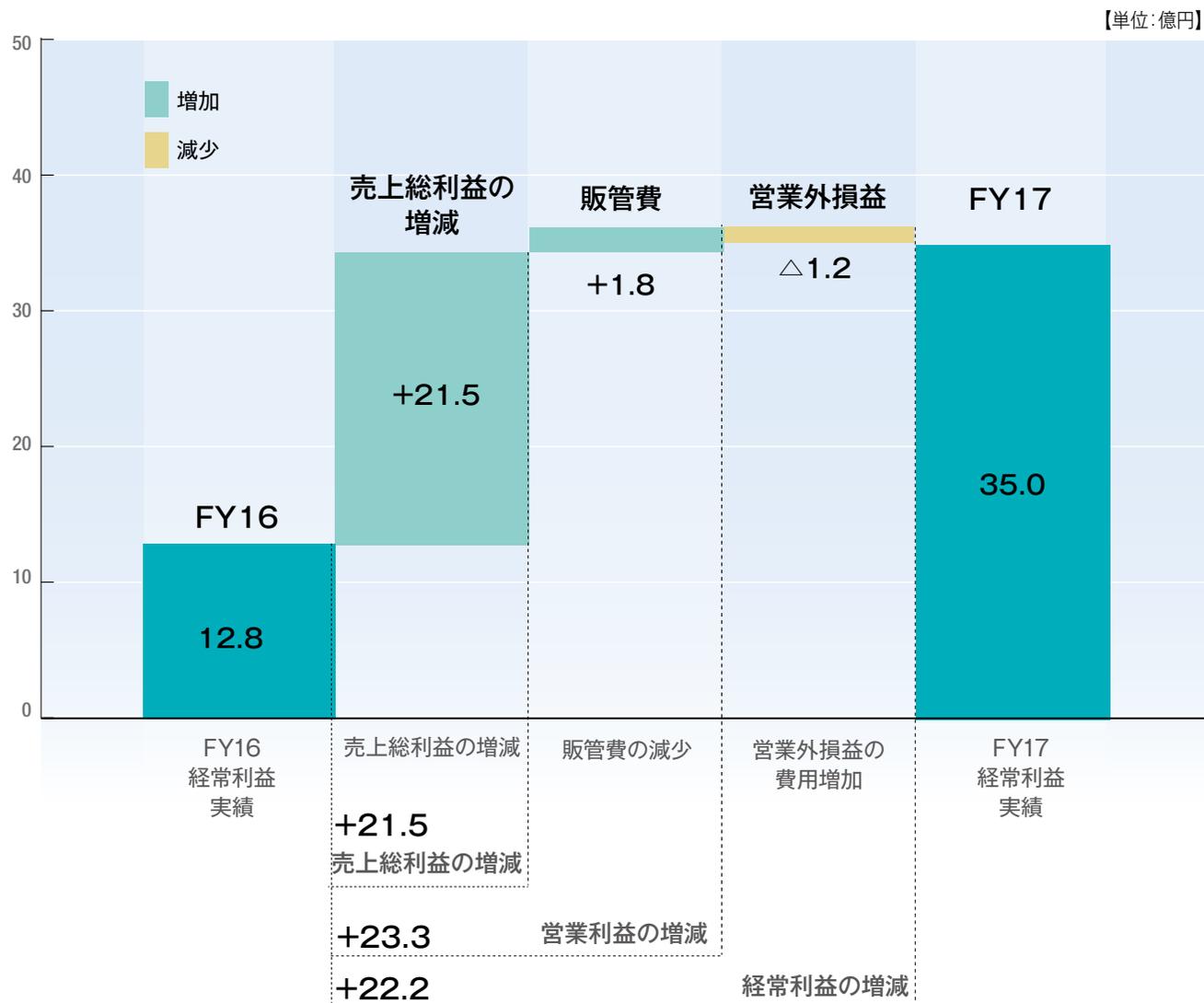
【単位:百万円】

	FY16 (実績)	FY17 (計画)	FY17 (実績)	前期比 (増減)	計画比 (増減)
売上高	81,834	79,400	77,791	△ 4,042	△ 1,608
売上総利益	11,002	13,140	13,154	2,151	14
販管費	8,870	9,340	8,687	△ 182	△ 652
営業利益	2,132	3,800	4,466	2,334	666
営業外損益	△ 846	△ 330	△ 962	△ 115	△ 632
経常利益	1,285	3,470	3,504	2,218	34
税金等調整前当期純利益	1,261	3,360	3,455	2,193	95
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,014	2,280	1,681	667	△ 598
1株当たり当期純利益 (円)	37.82	84.99	62.69	—	—
売上為替レート (円/USドル)	109.06	110.00	111.00	—	—

(注)計画とは、2017年5月10日の決算発表時の業績予想数値です。

# 連結経常利益の前期比差異要因

## ■ 前期比 +22.2億円



## Point

### ■ 売上総利益

- 工事損失引当金繰入額の減少 +12.7億円
- その他 +8.8億円

### ■ 販管費

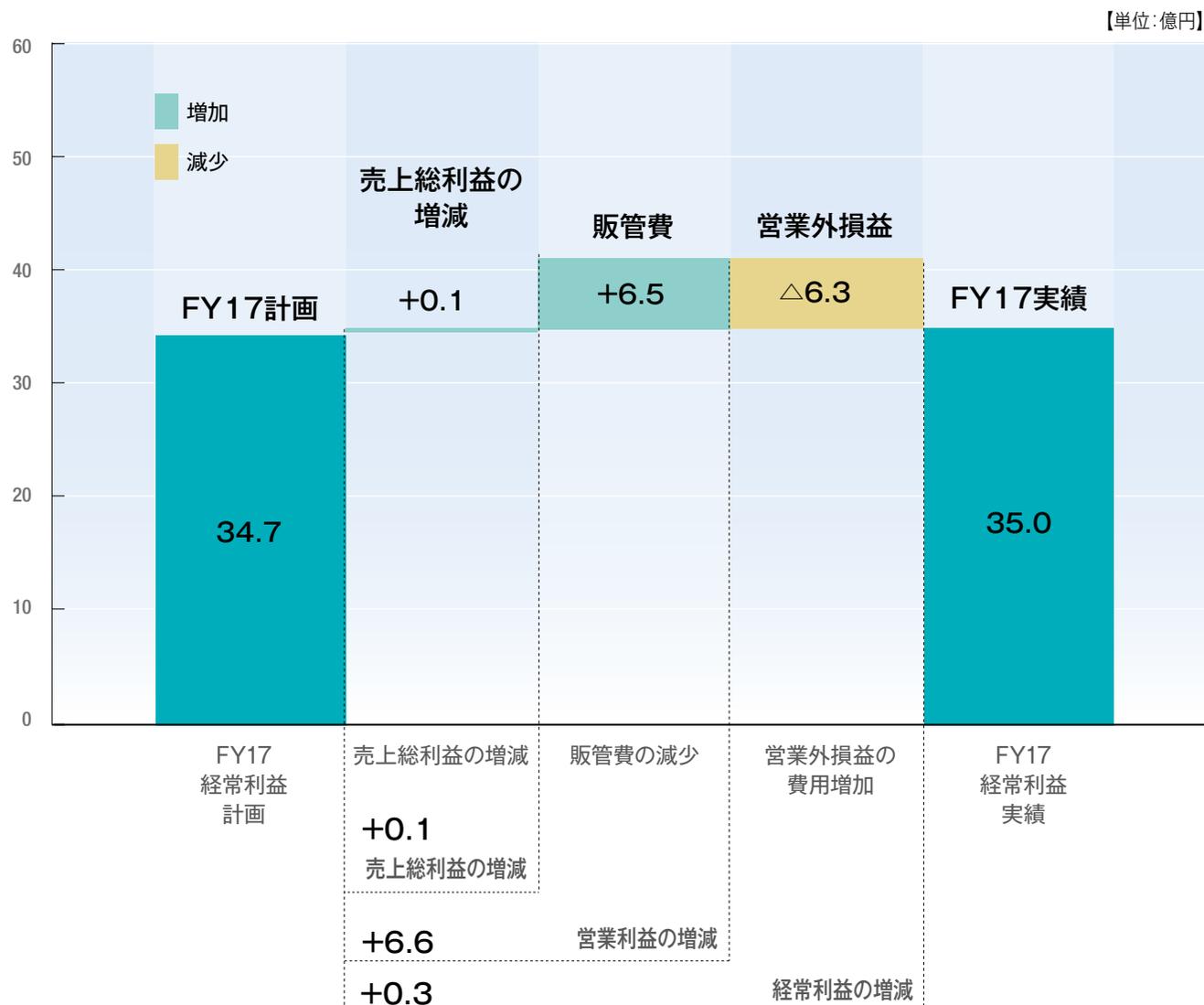
- 保証工事費の減少 +1.0億円
- 販売手数料の減少 +0.8億円

### ■ 営業外損益

- 支払補償費の増加 △2.9億円
- 為替差損の減少 +1.4億円
- その他 +0.3億円

# 連結経常利益の計画比差異要因

## ■ 計画比 +0.3億円



## Point

### 売上総利益

- 工事損失引当金繰入額の増加 △4.6億円
- その他 +4.7億円

### 販管費

- 試験研究費の減少 +3.6億円
- 保証工事費の増加 △0.8億円
- その他 +3.7億円

### 営業外損益

- 為替差損の増加 △4.2億円
- 支払補償費の増加 △4.2億円
- その他 +2.1億円

## セグメント別 売上高・経常利益①(前期比/計画比)

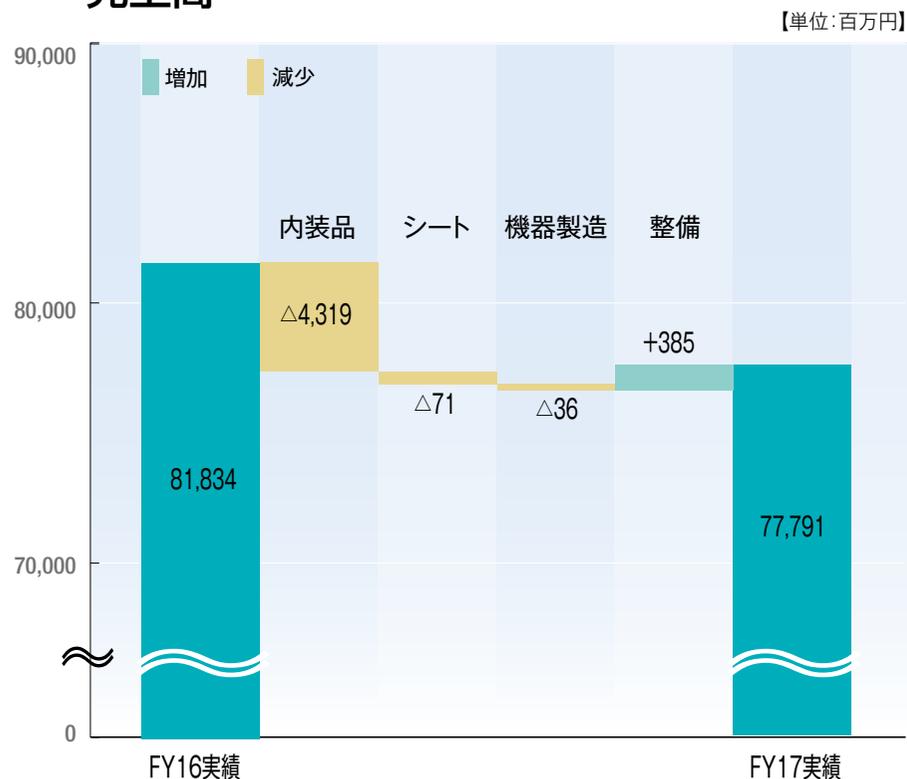
【単位:百万円】

	売上高					経常利益				
	FY16 (実績)	FY17 (計画)	FY17 (実績)	前期比 (増減)	計画比 (増減)	FY16 (実績)	FY17 (計画)	FY17 (実績)	前期比 (増減)	計画比 (増減)
航空機内装品	55,311	48,800	50,992	△ 4,319	2,192	4,676	3,230	6,793	2,117	3,563
航空機シート	12,556	15,700	12,484	△ 71	△ 3,215	△ 3,547	△ 330	△ 3,641	△ 93	△ 3,311
航空機器製造	6,349	6,500	6,312	△ 36	△ 187	96	350	216	119	△ 133
航空機整備	7,617	8,300	8,002	385	△ 297	64	220	139	75	△ 80
その他	0	0	0	0	0	△ 4	△ 10	△ 4	0	5
合計	81,834	79,400	77,791	△ 4,042	△ 1,608	1,285	3,470	3,504	2,218	34

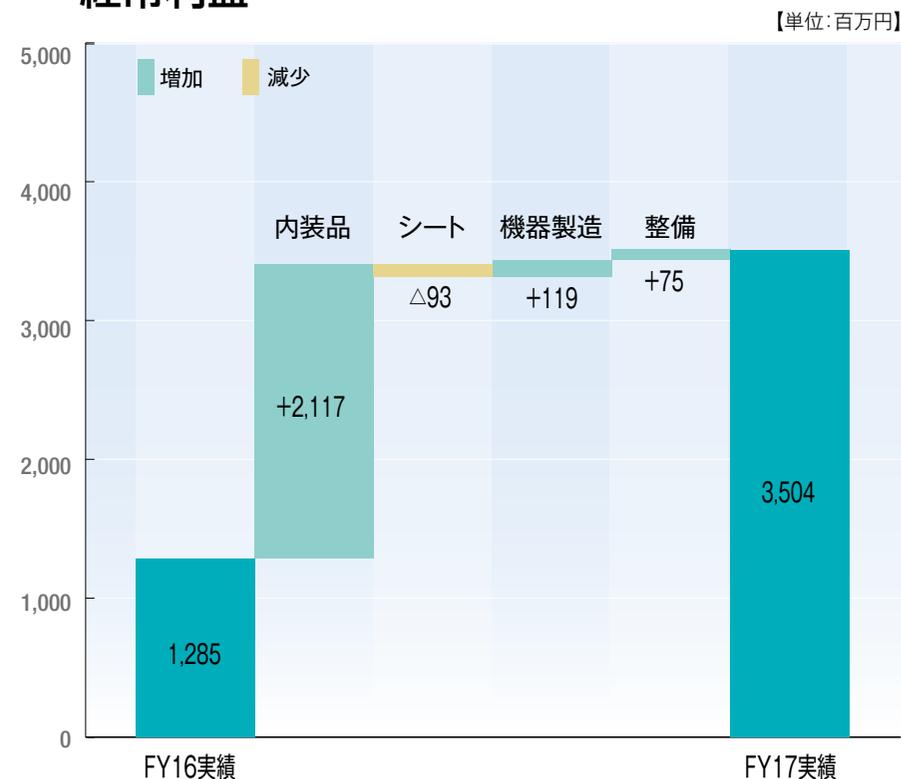
(注)「その他」はオレンジジャムコの事業を含んでおります。

## セグメント別 売上高・経常利益② (前期比)

## 売上高



## 経常利益



## Point

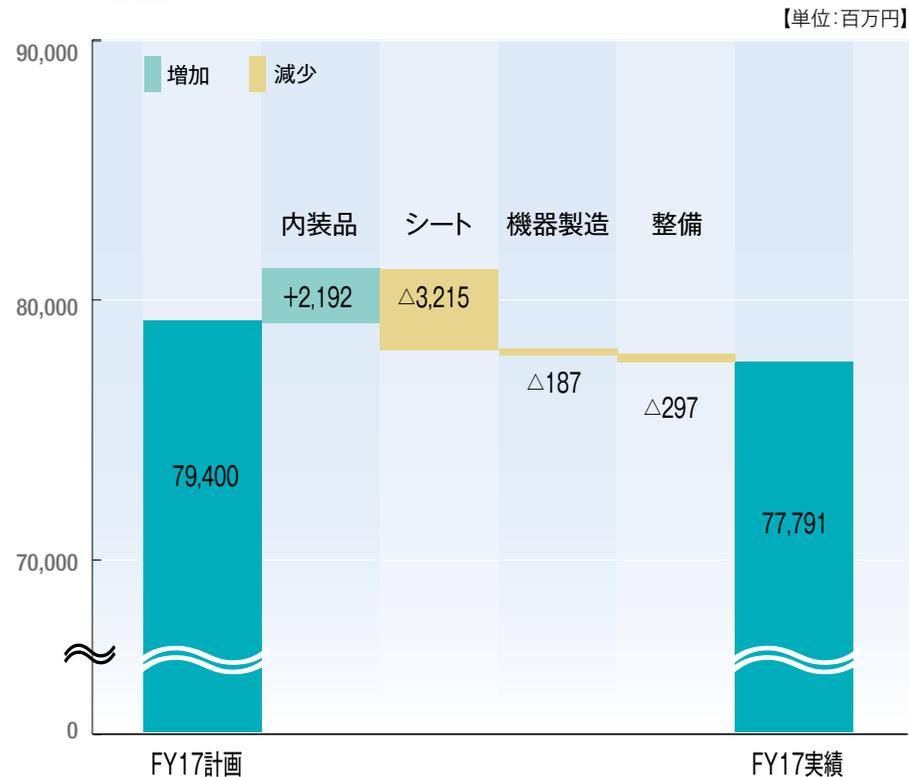
- 内装品は777型機向けギャレーやラバトリーが777Xへの移行に伴う端境期の影響を受け減少
- 整備は機体整備における完成工事が減少したものの、装備品整備が増加

## Point

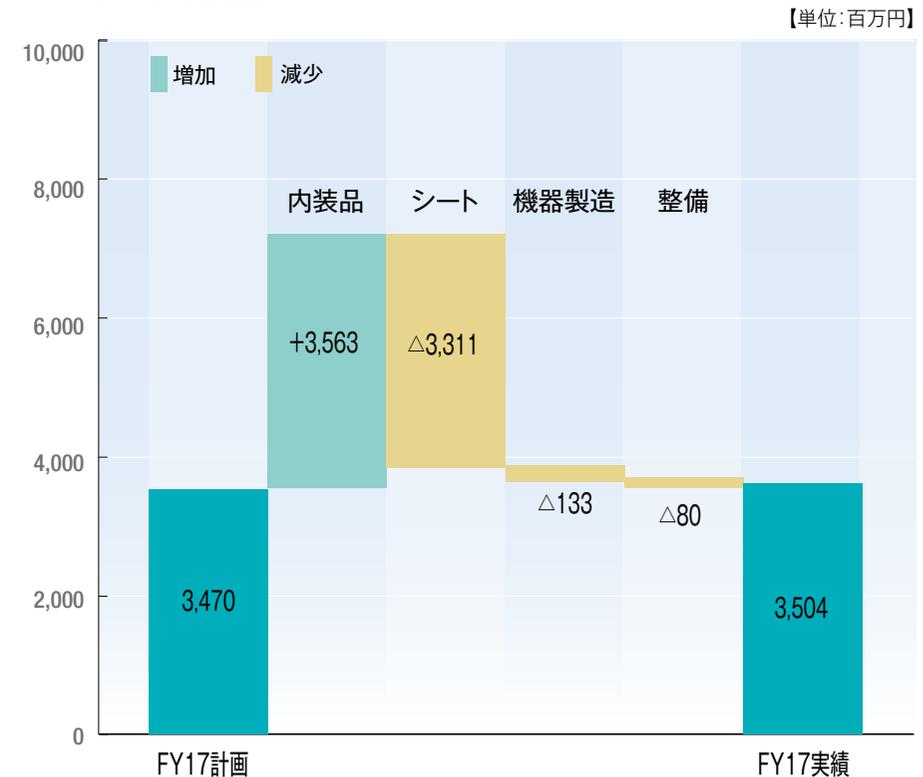
- 内装品は工事損失引当金の繰入額の減少、顧客仕様変更に伴う追加売上、スペアパーツ販売が好調に推移したことにより増加
- 機器製造はエンジン部品の生産量が増加

## セグメント別 売上高・経常利益③ (計画比)

## 売上高



## 経常利益



## Point

- 内装品は顧客仕様変更に伴う追加売上やギャレーの追加プログラムの出荷などにより増加
- シートはスペアパーツ販売が好調だったものの、一部プログラムの納期変更により減少

## Point

- 内装品は売上高増加の影響に加え、コスト削減施策による原価低減により増加
- シートは新規プログラムの開発・製造工程における初期コストの増加などにより減少

## グループ連結B/S

【単位:百万円】

科目	FY16末 2017年3月31日現在	FY17末 2018年3月31日現在	増減
〈資産の部〉			
<b>流動資産</b>			
現金及び預金	2,277	3,833	1,556
受取手形及び売掛金	23,158	22,451	△ 706
棚卸資産	41,360	42,658	1,297
その他流動資産	5,952	6,008	55
<b>流動資産合計</b>	<b>72,748</b>	<b>74,952</b>	<b>2,203</b>
<b>固定資産</b>			
有形固定資産	14,356	13,840	△ 515
無形固定資産	1,562	1,943	381
投資その他の資産	3,892	3,720	△ 171
<b>固定資産合計</b>	<b>19,811</b>	<b>19,504</b>	<b>△ 306</b>
<b>資産合計</b>	<b>92,559</b>	<b>94,456</b>	<b>1,897</b>

科目	FY16末 2017年3月31日現在	FY17末 2018年3月31日現在	増減
〈負債の部〉			
<b>流動負債</b>			
支払手形及び買掛金	9,608	7,518	△ 2,089
電子記録債務	6,371	7,462	1,090
短期借入金	22,741	22,239	△ 502
1年内返済予定の長期借入金	700	900	200
前受金	3,704	6,051	2,346
工事損失引当金	3,434	2,066	△ 1,367
その他流動負債	5,685	6,064	378
<b>流動負債合計</b>	<b>52,245</b>	<b>52,302</b>	<b>56</b>
<b>固定負債</b>			
長期借入金	4,700	4,500	△ 200
その他固定負債	7,610	8,100	490
<b>固定負債合計</b>	<b>12,310</b>	<b>12,600</b>	<b>290</b>
<b>負債合計</b>	<b>64,556</b>	<b>64,903</b>	<b>346</b>
〈純資産の部〉			
<b>純資産合計</b>	<b>28,003</b>	<b>29,553</b>	<b>1,550</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>92,559</b>	<b>94,456</b>	<b>1,897</b>

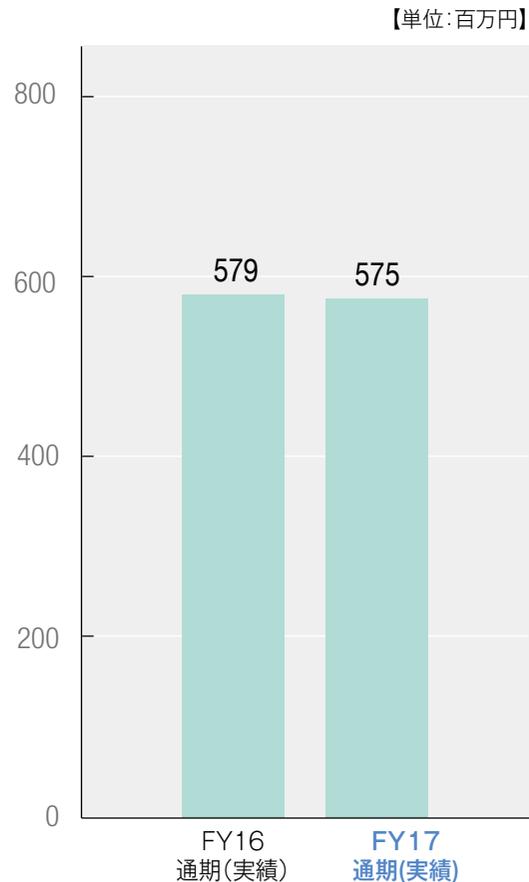
## Point

- 棚卸資産は内装品及びシートの開発費仕掛品が増加
- 純資産合計は利益剰余金が増加

- 工事損失引当金は内装品及びシートの出荷などにより減少
- 自己資本比率 29.4% → 30.4% 1.0ポイント上昇

# グループ連結 試験研究費/設備投資額/減価償却費

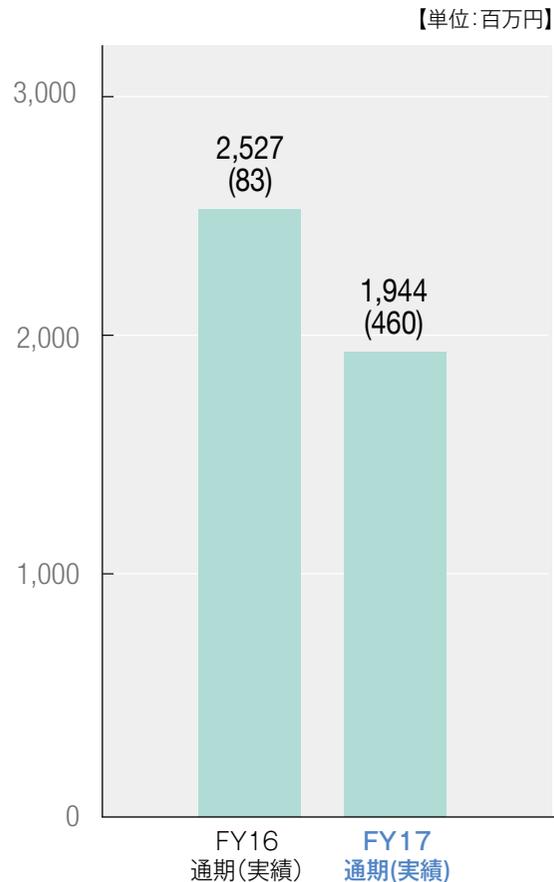
## 試験研究費(連結)



### Point

■ FY17通期(実績)  
スタンダードシート、内装品軽量化材料などの開発 ADP各種試験

## 設備投資額(連結)

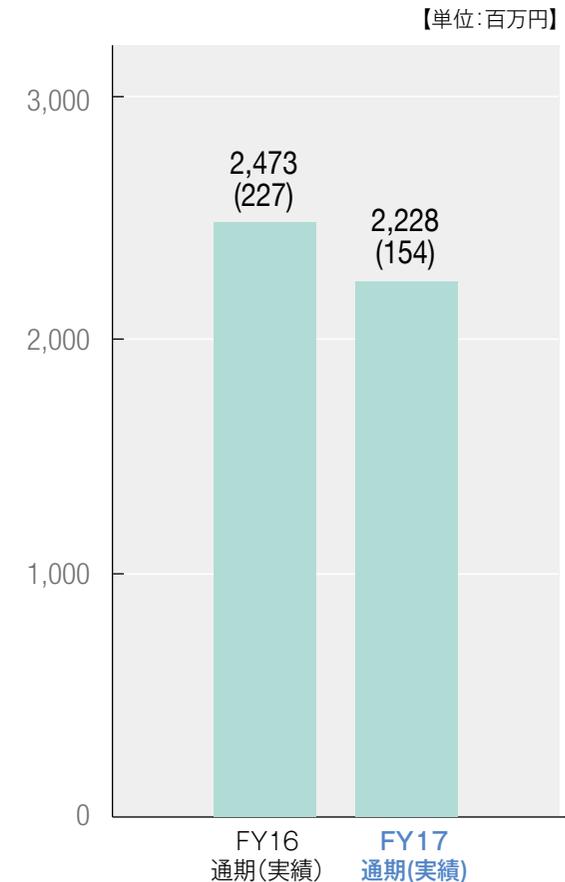


※設備投資には( )内の全リース物件を含む。

### Point

■ FY17通期(実績)  
自動化・機械化のためのIT関連シート関連のモックアップ及び金型など

## 減価償却費(連結)



※( )内はリース資産分。

## グループ各社の状況

【単位：百万円】

	当社	新潟 ジャムコ	宮崎 ジャムコ	中条 ジャムコ	ジャムコ アメリカ	ジャムコ エアロデザイン エンジニアリング	ジャムコ シンガポール	ジャムコ フィリピン	ジャムコ エアロ マニユファク チャリング	徳島 ジャムコ	ジャムコ エアロテック	オレンジ ジャムコ	シンガポール ジャムコ サービス
売上高	66,183	3,670	2,128	841	20,919	1,931	3,251	662	1,217	698	461	103	3,937
営業利益	2,979	316	△ 5	25	835 (630)	203	76	50	104	24	21	5	220
経常利益	2,309	334	5	41	1,962 (1,771)	221	70	45	114	24	21	5	221
当期純利益	1,576	224	2	28	967 (919)	194	62	34	74	15	13	3	187

(注1)シンガポールジャムコサービスは持分法適用関連会社です。

(注2)ジャムコアメリカは787関連開発費の償却について当社と同じ基準で会計処理しています。括弧内の数値は「米国基準」における数値です。

# 中期3ヶ年計画

- 14 | 経営環境と市場動向
- 15 | 中期ビジョン
- 16 | 中期の課題と対応
- 17 | グループ連結 売上高/経常利益/親会社株主に帰属する当期純利益
- 18 | 航空機内装品セグメント 売上高/経常利益
- 19 | 航空機シートセグメント 売上高/経常利益
- 20 | 航空機器製造セグメント 売上高/経常利益
- 21 | 航空機整備セグメント 売上高/経常利益
- 22 | 経営指標の推移
- 23 | グループ連結 試験研究費/設備投資額/減価償却費

## SECTION

# 2

## 2

## 経営環境と市場動向

- 米国の景気は好調が続き、拡大を続ける中国市場にも牽引され世界経済全体は好調に推移している。  
一方、米国政権の自国第一主義、経済政策の動向による影響、英国のEU離脱に伴うユーロ経済や為替市場への影響、中東や東アジアにおける地政学的リスクの高まりなど先行きは不透明。
- エアライン各社は旅客需要の増加が収益改善に寄与しているが、格安航空会社(LCC)の攻勢等により、依然として競争の激化は続いている。
- 航空機メーカーは旅客需要の高まりに伴い小型機で歴史的な生産機数を更新、ボーイング787やエアバスA350など中型機の生産も安定的に高水準を維持、その反面、ボーイング777Xへの移行の端境期による現行の777の減産と大型機の需要減少に伴うエアバスA380の減産の影響が続く見込み。
- 航空機メーカーにとって機体製造コストの削減とリードタイムの圧縮は重要な課題となっており、サプライヤーに対する製造コスト、リードタイム削減に向けた要求は厳しさを増している。

## 中期ビジョン

- 航空機分野に特化し、内装品事業を基軸に、機器製造、航空機整備の能力を集約し、航空機内装品のリーディング・カンパニーとなる

## 中期経営指標

- 収益性指標：連結経常利益率 7%以上
- 効率性指標：連結ROA 7%以上
- 配当方針：連結配当性向20~30%を目安とする

## 中期の課題と対応

### 航空機内装品

- ① 長期安定事業基盤となる次期新型機向け内装品の契約確保への取組みの強化
- ② 顧客からのコスト、リードタイム削減要求への対応に加え、新規プロジェクトの開発プロセス改善を行い、今後拡大する新規開発案件へ対応
- ③ サプライチェーンを強化し、品質・コスト・リードタイムをより一層改善
- ④ 部材、外注委託費に関するベンチマークを実施し、委託業務の見直し、最適化によりコスト競争力を向上

### 航空機シート

- ① 標準化されたプラットフォームを活用したスタンダードシートの開発・販売を強化  
効率の良い開発への移行と製造プロセスの改善を促進し、安定収益化を推進
- ② 次世代に向けた魅力的な製品開発により受注・販売の促進
- ③ グループサプライチェーンの最適化を図り、生産効率を向上

### 航空機器製造

- ① 技術的付加価値の高い製品の受注拡大を図り、競争力を強化
- ② 関連企業を含め品質及び生産効率を追求し収益性を向上
- ③ 炭素繊維成型などの製造技術を内装品やシートに応用

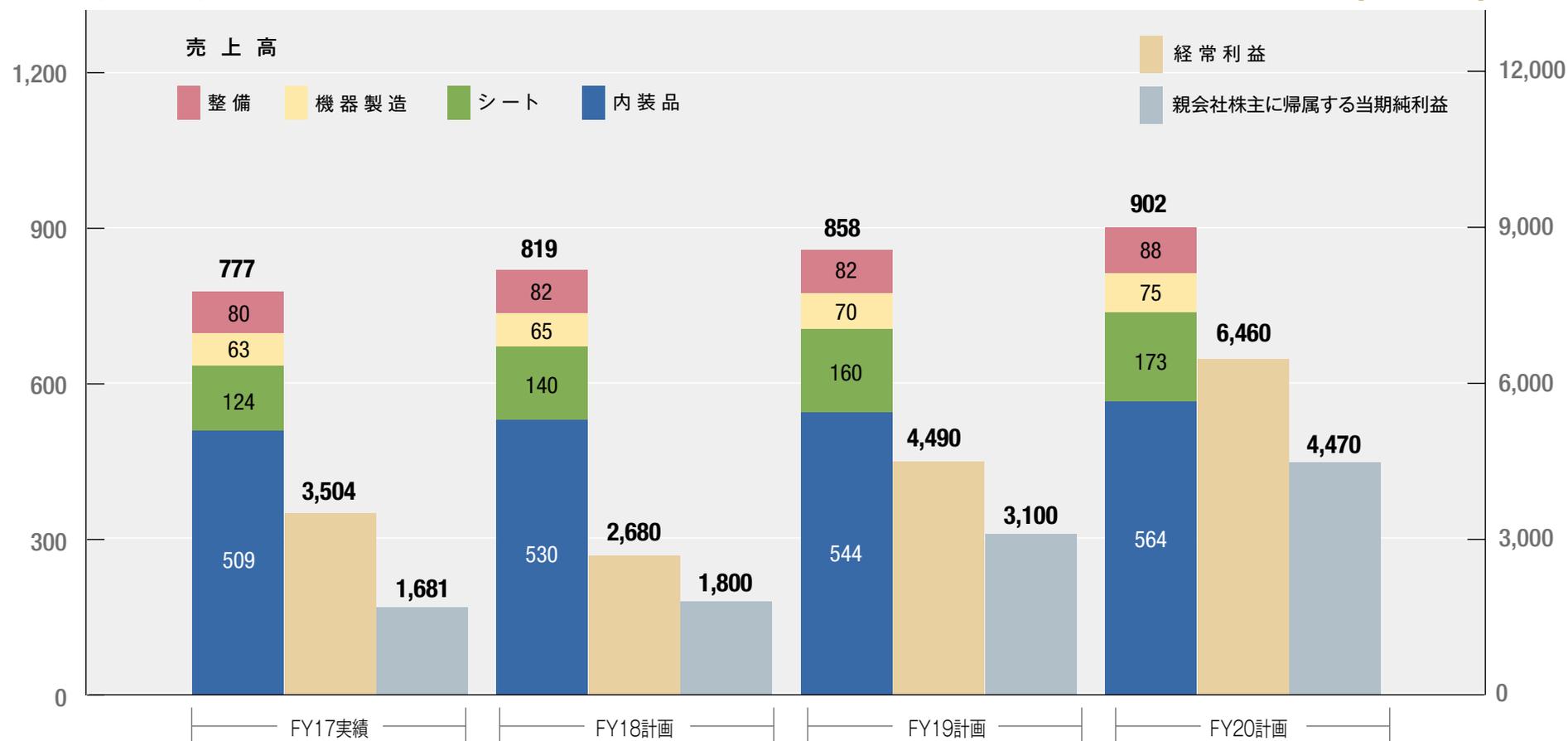
### 航空機整備

- ① 飛行安全の確保と品質保証体制のたゆまぬ強化
- ② 付加価値の高い新たなビジネスへの取組みを強化
- ③ 事業領域の変更、契約条件の見直し等の合理化の推進
- ④ MRO Japan株式会社（沖縄に展開予定の航空機整備改造業者）への参画

# グループ連結 売上高/経常利益/親会社株主に帰属する当期純利益

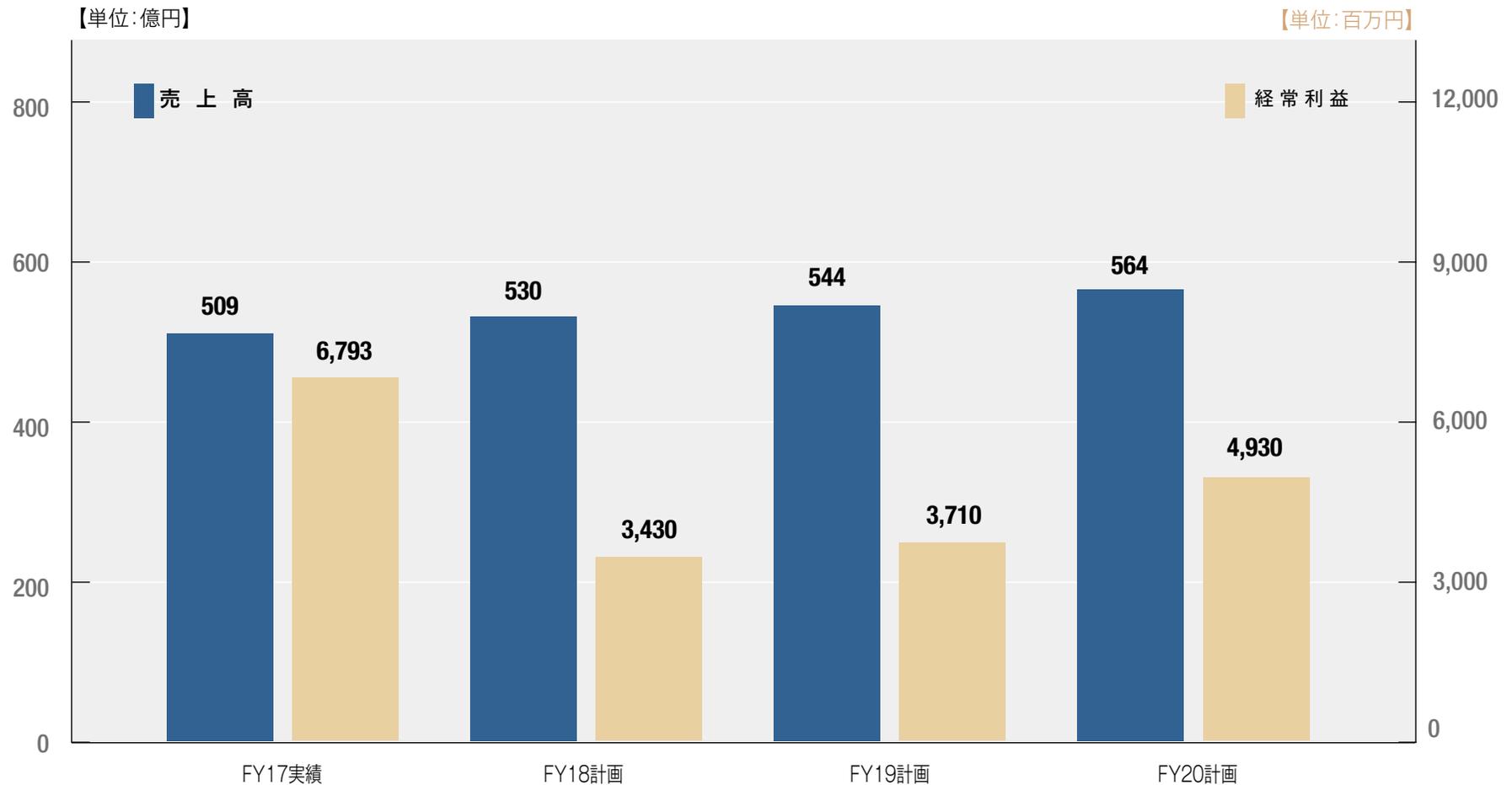
【単位:億円】

【単位:百万円】



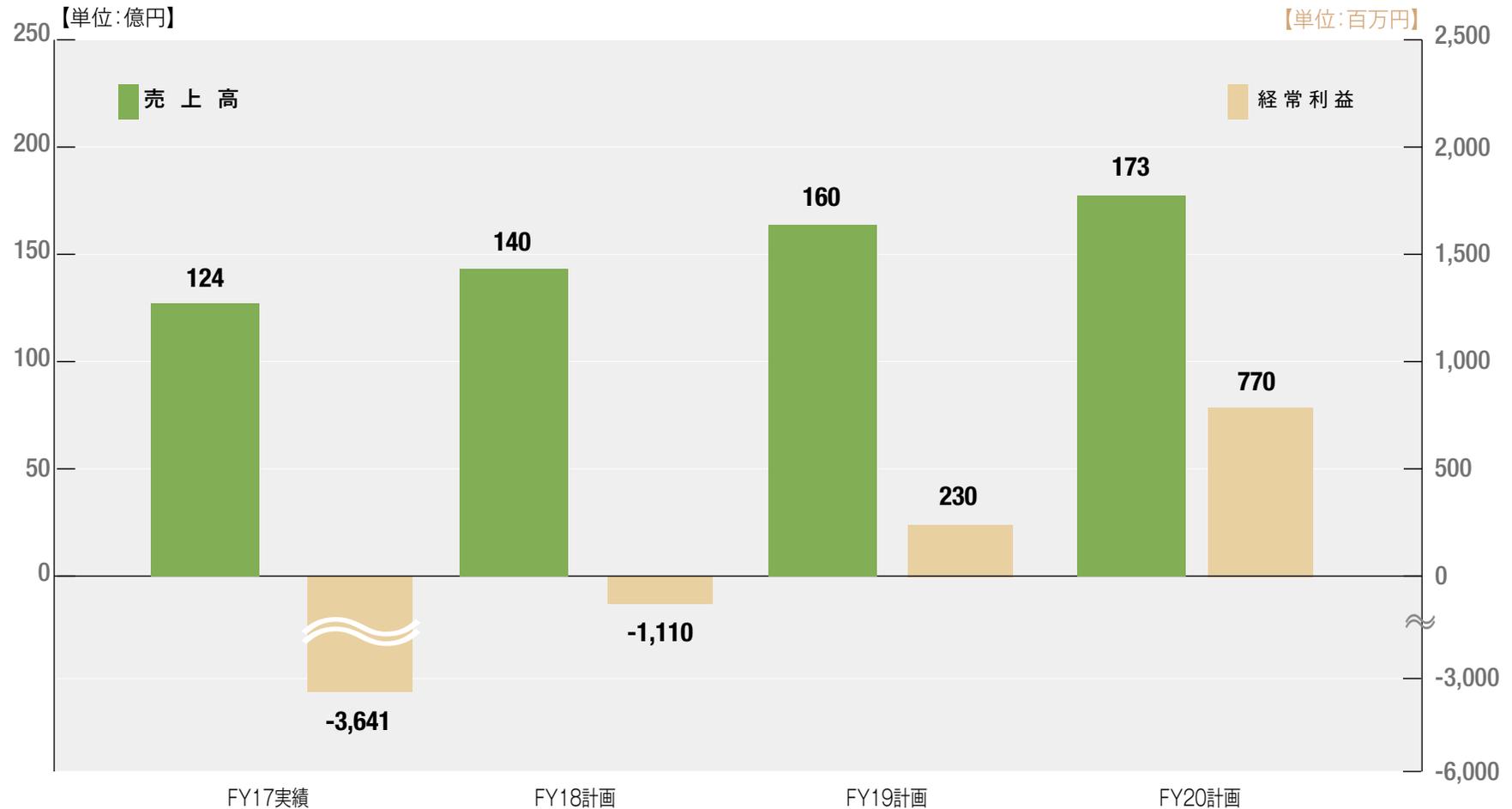
(注) 中期計画の為替レート FY18~20 105円/USドル

## 航空機内装品セグメント 売上高/経常利益



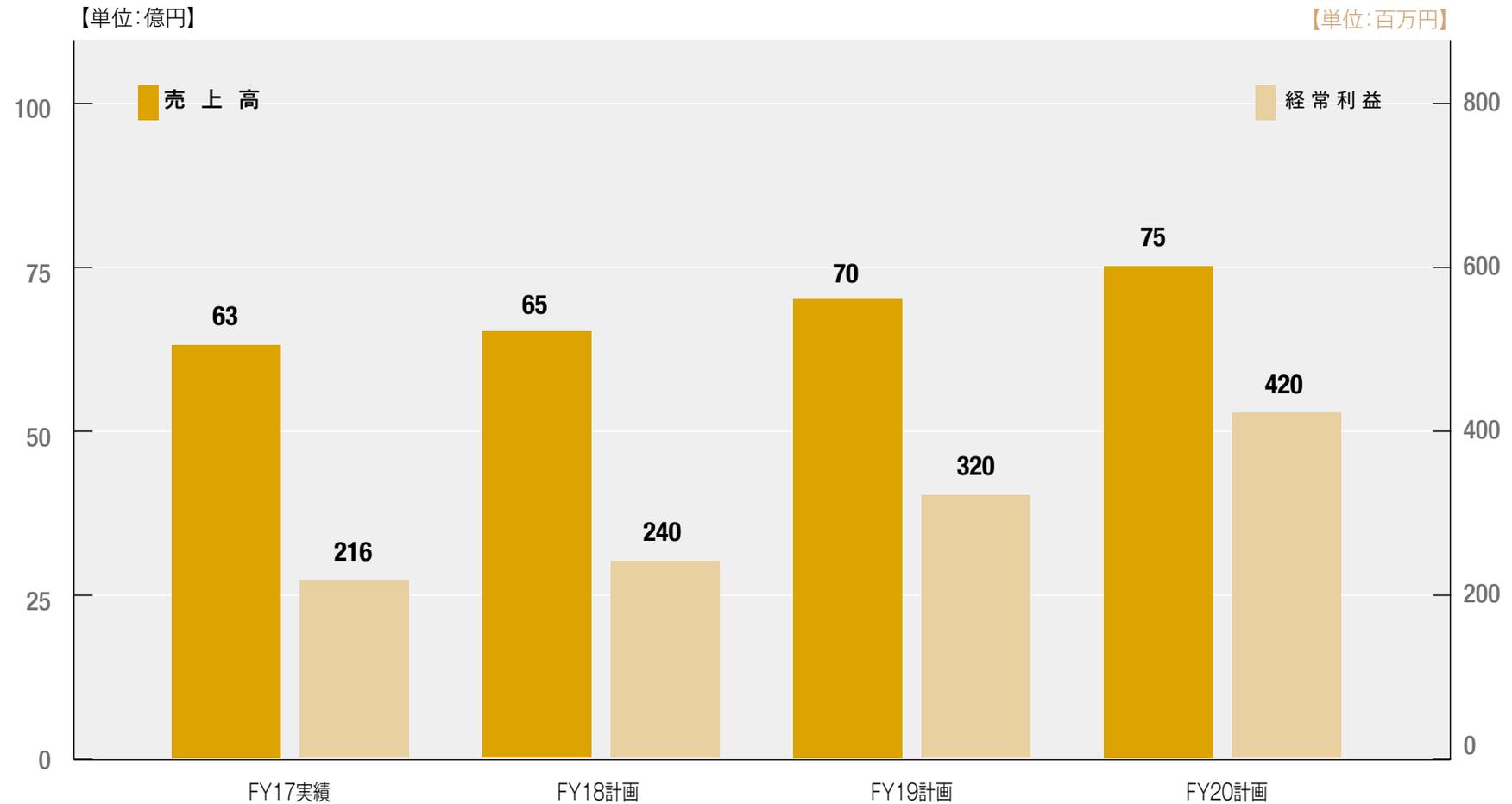
(注) 中期計画の為替レート FY18~20 105円/USドル

## 航空機シートセグメント 売上高/経常利益



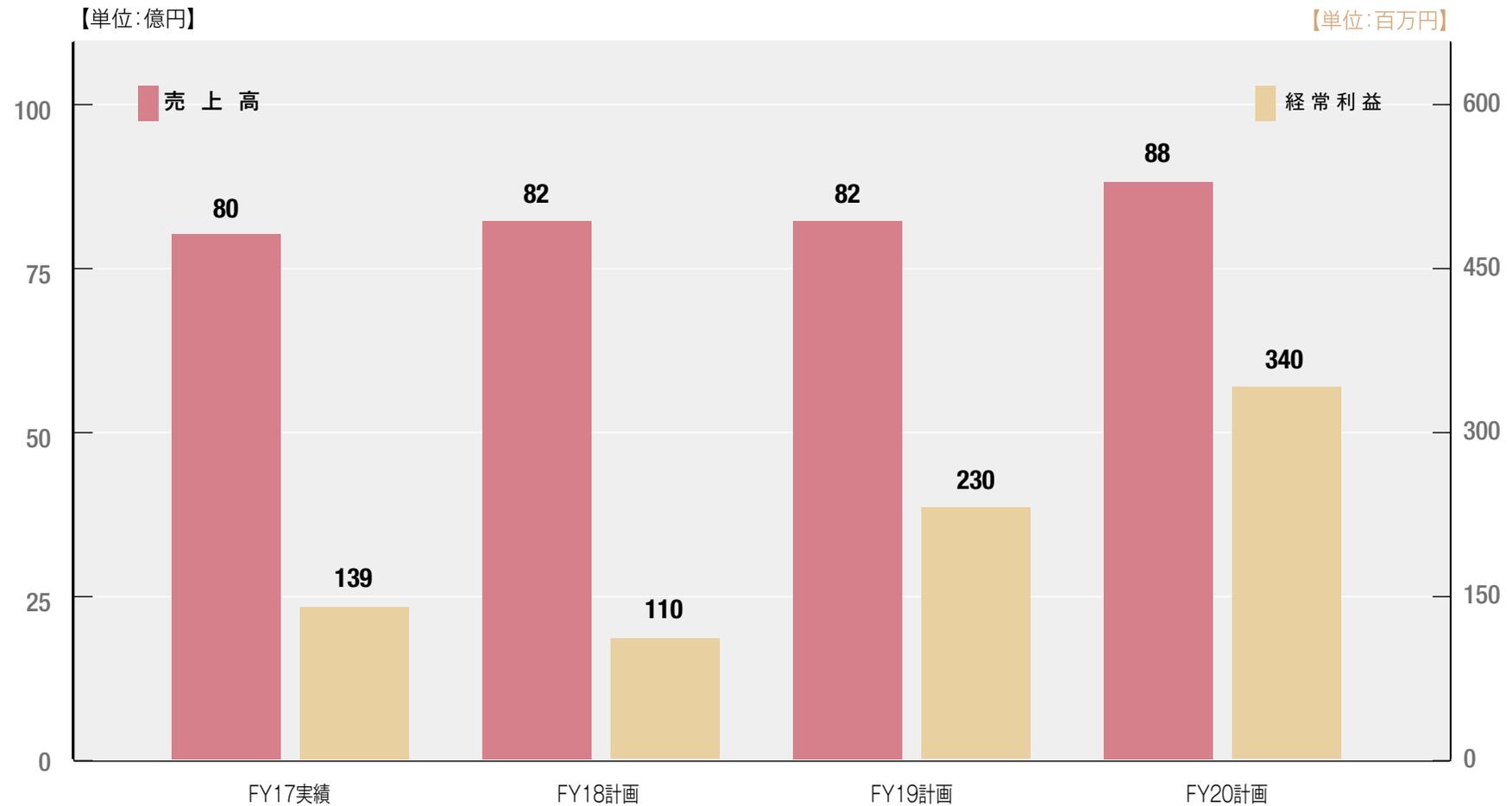
(注) 中期計画の為替レート FY18~20 105円/USドル

## 航空機器製造セグメント 売上高/経常利益



(注) 中期計画の為替レート FY18~20 105円/USドル

## 航空機整備セグメント 売上高/経常利益



(注) 中期計画の為替レート FY18~20 105円/USドル

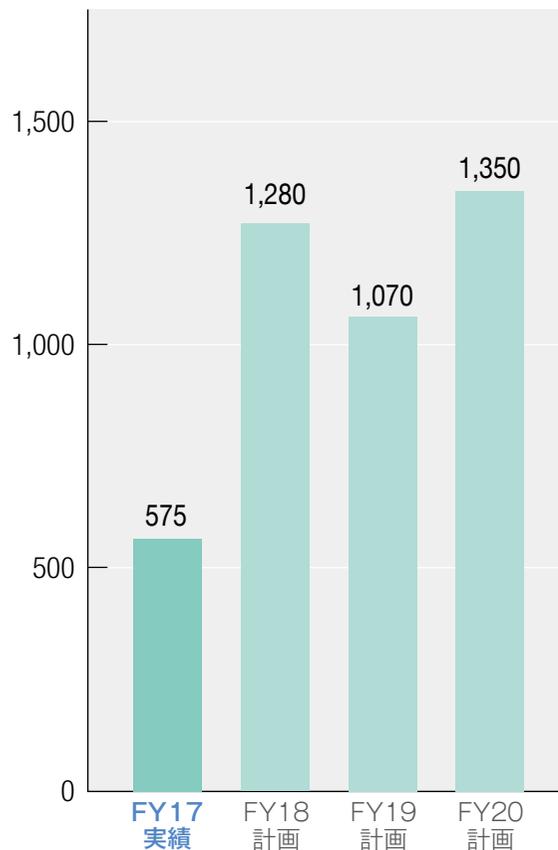
## 経営指標の推移

	FY14	FY15	FY16	FY17	FY18 (計画)	FY19 (計画)	FY20 (計画)
連結経常利益率	10.2%	9.0%	1.6%	4.5%	3.3%	5.2%	7.2%
ROA (総資産経常利益率)	9.8%	9.2%	1.4%	3.7%	2.9%	4.9%	7.1%
ROE (株主資本当期純利益率)	22.6%	20.2%	3.7%	6.0%	6.1%	10.0%	13.3%
自己資本比率	27.0%	29.7%	29.4%	30.4%	32.6%	35.2%	38.5%
1株当たり配当額	¥35	¥40	¥10	¥20	¥20	—	—
配当性向	19.6%	20.8%	26.4%	31.9%	29.8%	—	—
株価 (期末日)	¥3,665	¥2,816	¥2,475	¥2,242	—	—	—

# グループ連結 試験研究費/設備投資額/減価償却費

## 試験研究費(連結)

【単位:百万円】

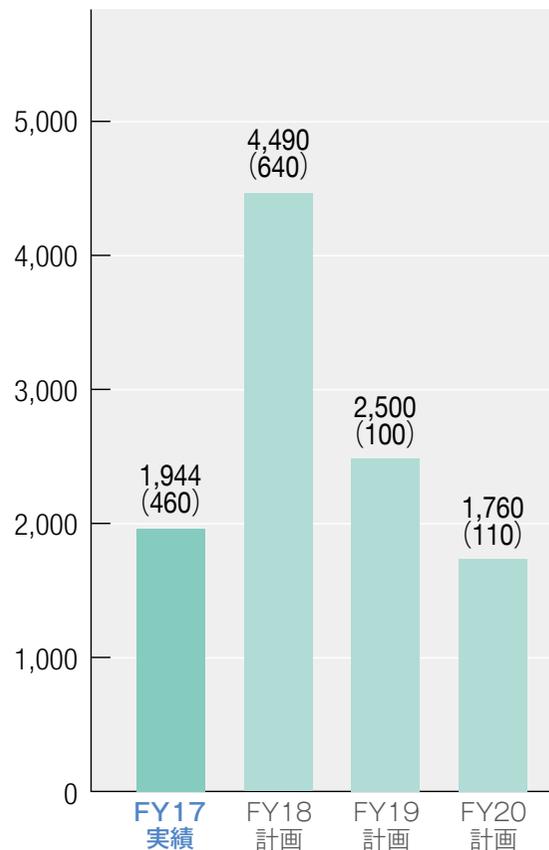


Point

■ FY18計画  
 スタンダードシート、内装品軽量化材料  
 などの開発 ADP各種試験など

## 設備投資額(連結)

【単位:百万円】



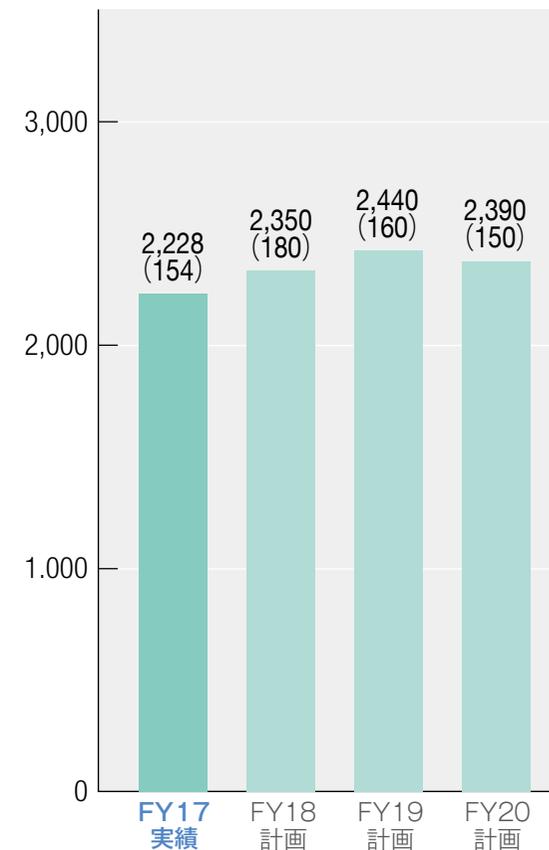
※設備投資には( )内の全リース物件を含む。

Point

■ FY18計画  
 設計業務の効率化、システムの改修などのIT投資  
 新規シート生産設備の導入、内装品関連の金型など

## 減価償却費(連結)

【単位:百万円】



※( )内はリース資産分。

# 2018年3月期 決算説明会 添付資料

- 25 | 企業グループ概要
- 26 | 事業概要① 航空機内装品製造事業
- 27 | 事業概要② 航空機シート製造事業
- 28 | 事業概要③ 航空機器製造事業
- 29 | 事業概要④ 航空機整備事業
- 30 | 事業概要⑤ 国内関連会社
- 31 | 事業概要⑥ 海外関連会社
- 32 | 航空機メーカーの動向/航空機メーカーの受注残
- 33 | 航空機メーカーの動向/新型旅客機の開発・生産状況
- 34 | 航空機メーカーの動向/ボーイング・エアバスの受注・納入状況
- 35 | 航空機メーカーの動向/ボーイングの受注・納入状況
- 36 | 航空機メーカーの動向/エアバスの受注・納入状況
- 37 | 中長期の市場動向/世界の航空旅客予測
- 38 | 中長期の市場動向/ジェット機の運航機材構成予測

## SECTION 3

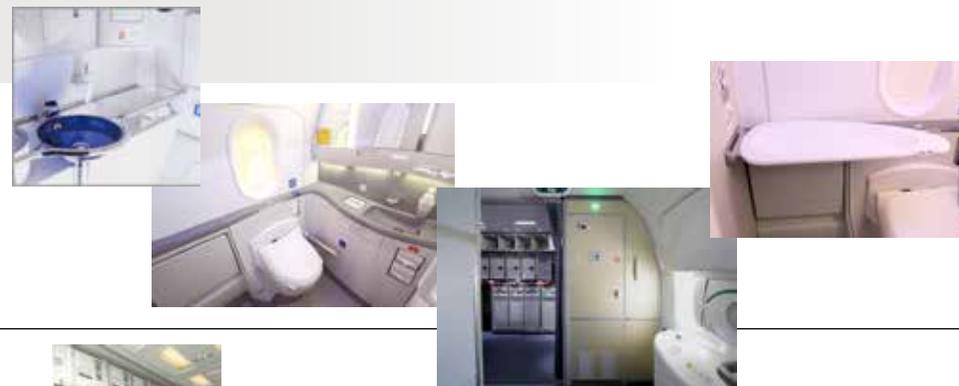
# 企業グループ概要



## 航空機内装品製造事業

### 航空機用ラバトリー（化粧室）の製造

- ボーイング747-8・767・777・777X・787向けラバトリーを独占供給



### 航空機用ギャレー（厨房設備）の製造

- ボーイング747-8・777・787・767・737に搭載
- エアバスA380・A330・A340・A320に搭載
- 世界の航空会社約100社へ納入
- 787向けギャレーを独占供給
- A350向けICE (Increased Cabin Efficiency) リアギャレーを供給



### 航空機改修事業

- 客室内装備品の新規搭載、配置換え、及びキャビンクルーの休憩室搭載等に関する、設計、プロジェクトの管理、取付用部品の製造と認証取得
- アメリカ連邦航空局 (FAA) よりODA認定を取得 (ジャムコアアメリカ)  
FAAに代わって航空機客室改造の追加型式証明の発行が可能
- 欧州航空安全庁 (EASA) より設計認証 (DOA) を取得 (ジャムコアエアロデザイン&エンジニアリング)



## 航空機シート製造事業

### 航空機用シートの製造

- ボーイング787向けプレミアムクラスシート  
スタンダードシート (商品名Journey-B, Venture)
- エアバス向けA350 ACS (Airbus Contracted Supplier) シート  
スタンダードシート (商品名Journey™ ビジネスクラスシート)
- シンガポール航空向けファースト、ビジネスクラスシート  
ボーイング777-300ER用ファースト、ビジネスクラスシート  
エアバスA350用ビジネスクラスシート  
エアバスA380用ビジネスクラスシート



シンガポール航空提供



### 航空機用シートコンソールの製造

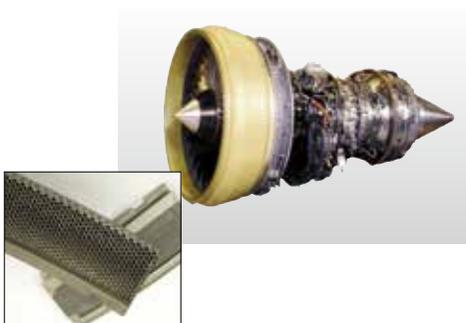
- プレミアムクラス シートコンソール  
シンガポール航空エアバスA380用スイートクラス・シートコンソール  
全日空ボーイング777-300ER用ファーストクラス・シートコンソール



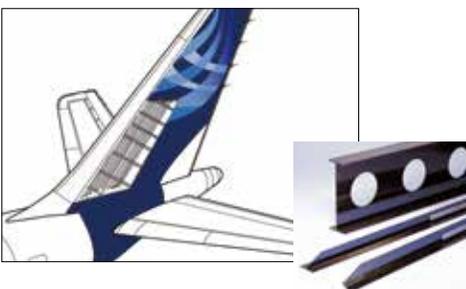
## 航空機器製造事業



航空機用熱交換器及び  
各種航空機搭載機器の製造



ジェットエンジン部品の製造



航空機用炭素繊維構造部材の製造

- エアバスA380用2階床構造部材 (ADP)
- エアバスA350を除くエアバス機の垂直尾翼構造部材 (ADP)
- エアバスA350貨物室床下構造材

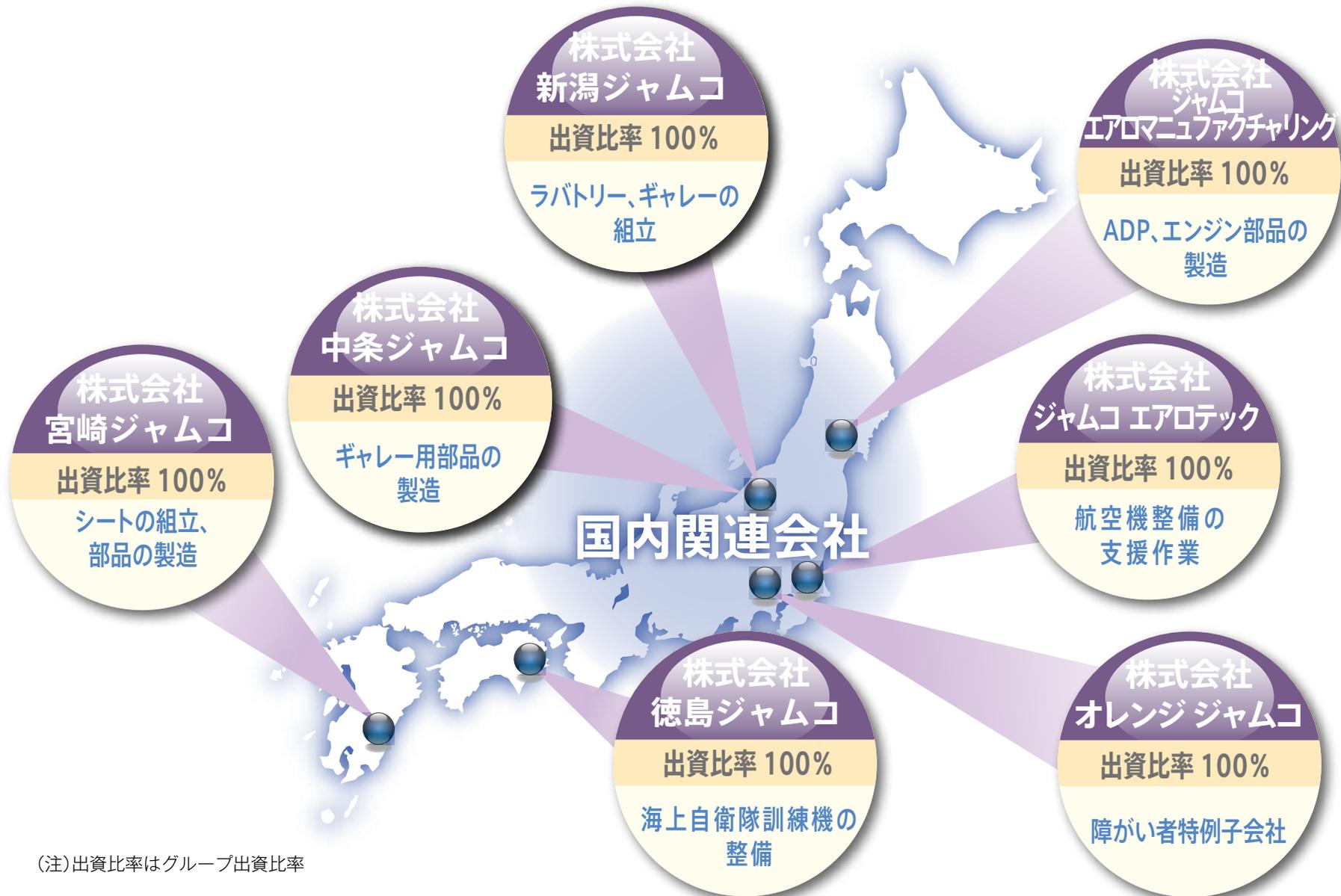
## 航空機整備事業



### 防衛省、海上保安庁、航空大学校、 エアラインなどの航空機、 装備品整備事業



- 中型・小型航空機及びヘリコプターの整備・改造
- リージョナル機の整備
- プロペラ、脚、航空電子機器の整備
- 車輪、ブレーキ、救難用ホイス（吊り上げ装置）のオーバーホール
- 大型旅客機客室内装備品の整備
- エバキュエーション（緊急脱出）スライドの整備
- 航空機用高圧ガス容器の整備



(注)出資比率はグループ出資比率

## 事業概要⑥



## 航空機メーカーの受注残

## ボーイング社の受注残機数

狭胴機

4,668 機 (前年同期 4,452機)

広胴機

1,196 機 (前年同期 1,263機)

## エアバス社の受注残機数

狭胴機

6,141 機 (前年同期 5,645機)

広胴機

1,124 機 (前年同期 1,229機)

(注)2017年12月末時点

出所：ボーイング社 HP、エアバス社 HP

# 新型旅客機の開発・生産状況

## ■ 787の生産状況

- 2018年3月末日現在、670機の引き渡しを完了
- 2018年3月末日現在、受注残機数は648機

## ■ 777Xの開発状況

- 2020年に初号機引き渡し予定
- 2018年3月末日現在、受注残機数は326機

## ■ 737MAXの生産状況

- 2018年3月末日現在、110機の引き渡しを完了
- 2018年3月末日現在、受注残機数は4,364機

## ■ A380の生産状況

- 2018年3月末日現在、223機の引き渡しを完了
- 2018年3月末日現在、受注残機数は108機

## ■ A350XWBの生産状況

- 2018年3月末日現在、159機の引き渡しを完了
- 2018年3月末日現在、受注残機数は695機

## ■ A330neoの開発状況

- 2018年に初号機引き渡し予定
- 2018年3月末日現在、受注残機数は214機

## ■ A320ファミリーneoの生産状況

- 2018年3月末日現在、279機の引き渡しを完了
- 2018年3月末日現在、受注残機数は5,752機

出所：ボーイング社HP、エアバス社HP

## ボーイング・エアバスの受注・納入状況

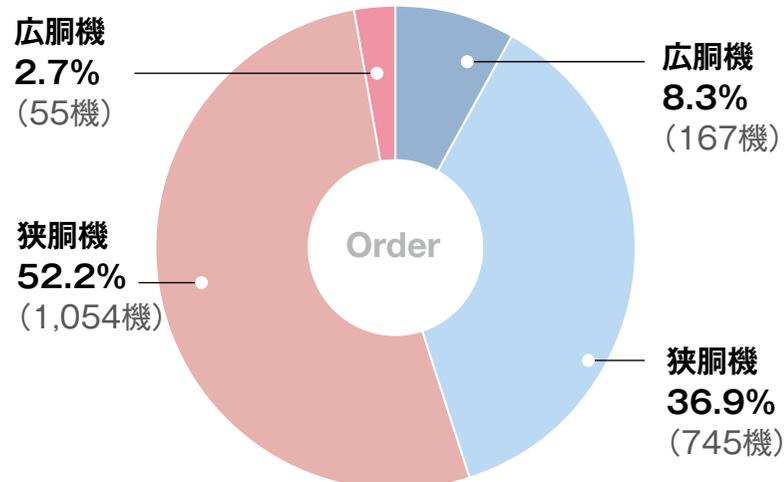
(2017年1月～12月累計)

## 受注状況

●エアバス社

**54.9%**  
 (1,109機)

●ボーイング社

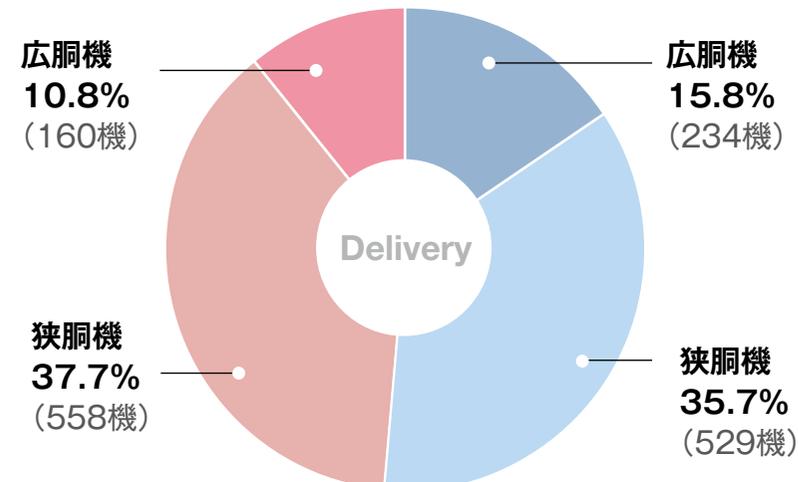
**45.1%**  
 (912機)


## 納入状況

●エアバス社

**48.5%**  
 (718機)

●ボーイング社

**51.5%**  
 (763機)


出所：ボーイング社 HP、エアバス社 HP

## ボーイングの受注・納入状況

(2017年1月～12月累計)

	受 注	納 入	受 注 残
ボーイング合計	912	763	5,864
<b>747</b>	△ 2	14	12
<b>777/777X</b>	60	74	428
<b>787</b>	94	136	658
<b>767</b>	15	10	98
<b>737</b>	745	529	4,668

(注)   色の機種は広胴機（ワイドボディー機）を示す。

出所：ボーイング社 HP

(注1)ボーイング777/777Xの受注残には777Xの受注残326機を含む。

(注2)受注は正味受注機数を示す。

## エアバスの受注・納入状況

(2017年1月～12月累計)

	受 注	納 入	受 注 残
エアバス合計	1,109	718	7,265
<b>A380</b>	△ 2	15	95
<b>A350</b>	36	78	712
<b>A330/A340</b>	21	67	317
<b>A320</b> ファミリー	1,054	558	6,141

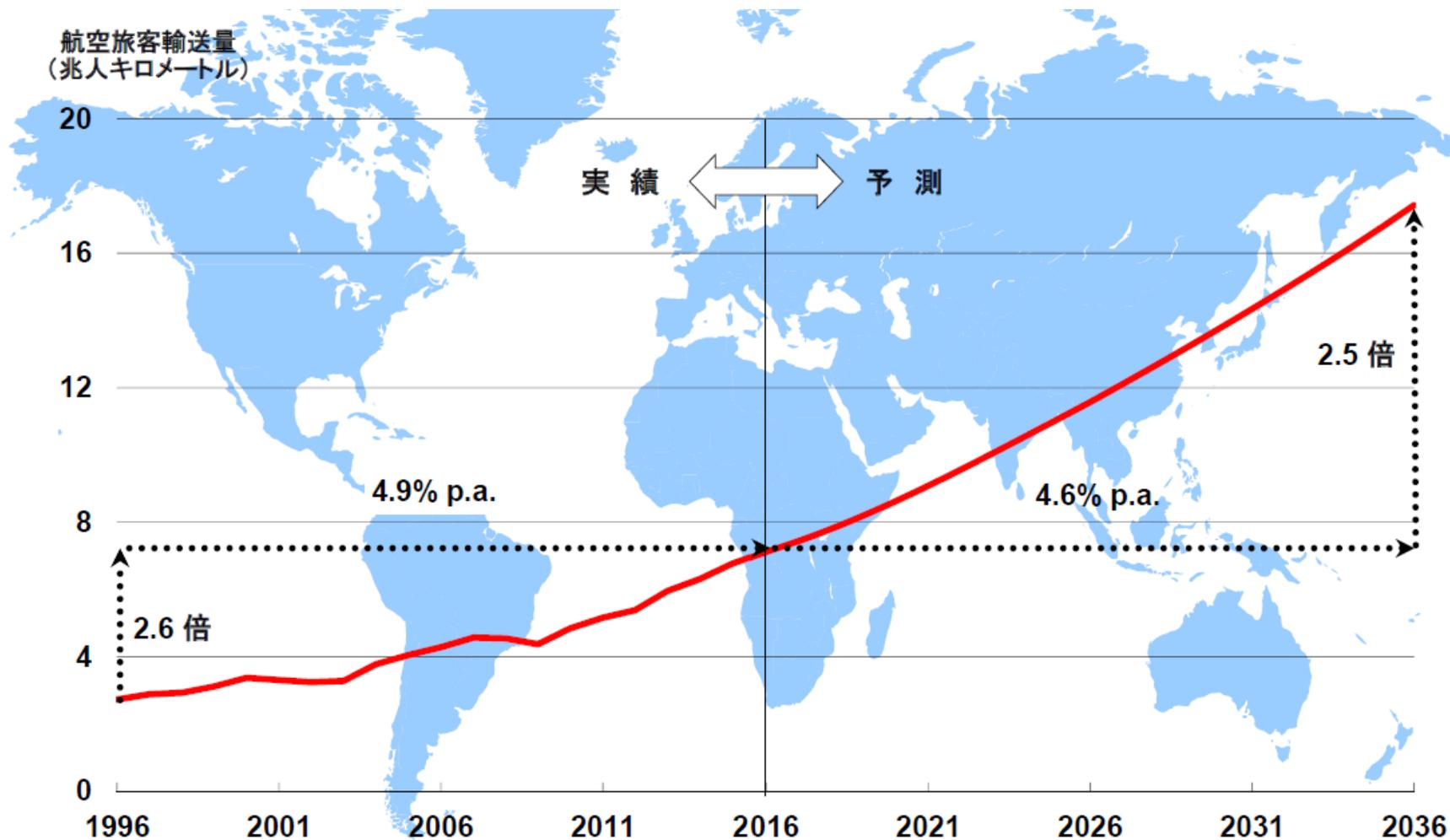
(注)  色の機種は広胴機（ワイドボディー機）を示す。

出所：エアバス社 HP

(注)受注は正味受注機数を示す。

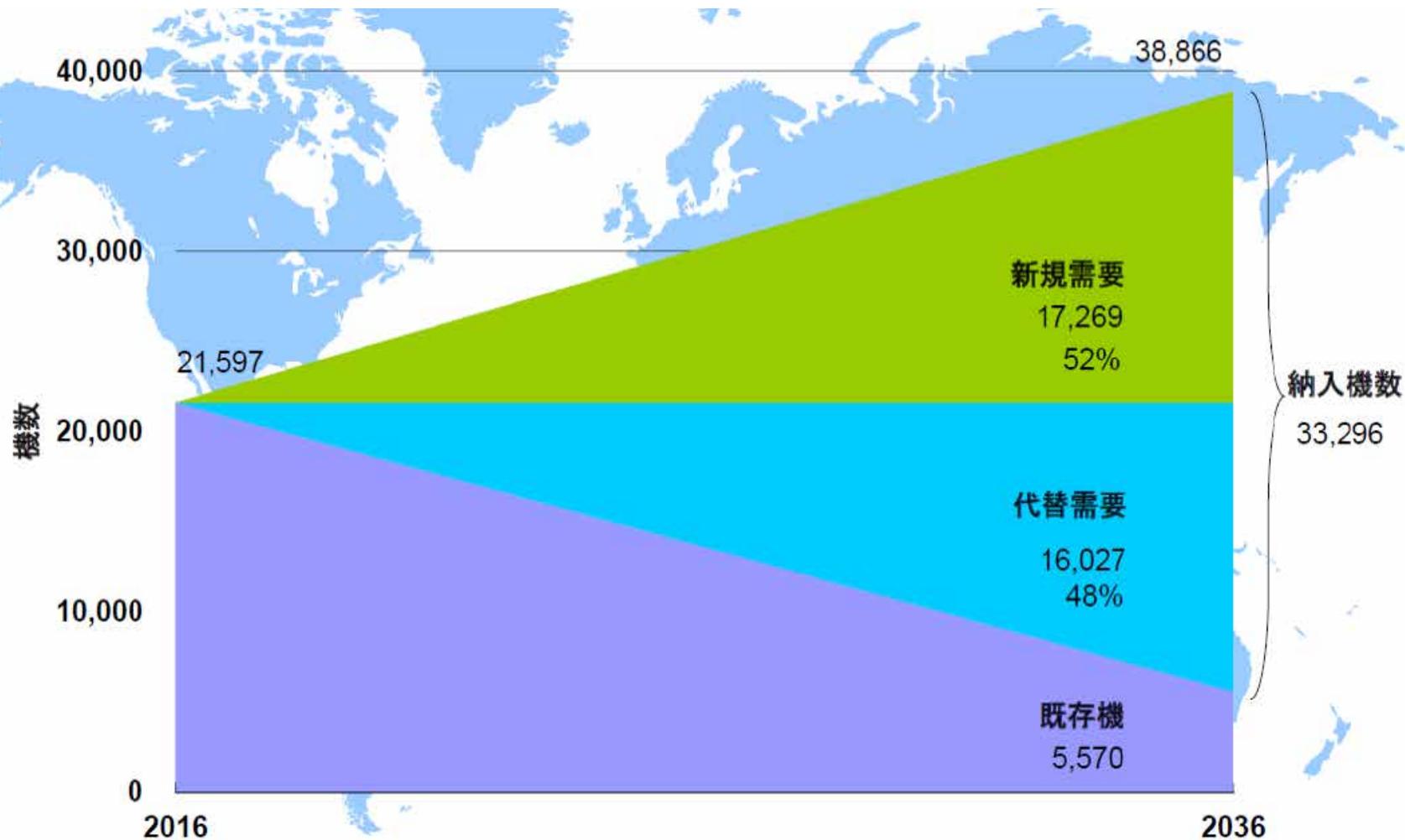
## 世界の航空旅客予測

2017-2036年の20年間の航空旅客輸送量の成長率は年平均4.6%と予測



## ジェット機の運航機材構成予測

今後20年間の世界の需要は33,296機、その内新規需要は17,269機



技術を翼に世界の空へ

 **Jamco**  
ALWAYS FLY TOGETHER



*Always Fly Together*